

冠省

過日、父・喜代造葬儀の際には、ご多用のところご来駕のうえ、ご懇篤な弔詞を賜り、まことにありがたく厚く御礼申し上げます。

S様のあたたかくお心のこもったお言葉に、父との深い交わりをあらためて感じました。父の人生の二本柱は仕事とゴルフでした。

不肖の息子たちはまったくゴルフをせず、父は寂しい思いをしていたと思います。

そんななか、S様をはじめとするゴルフのお仲間が父の心の支えでありました。

父は若い友人が大好きでした。父自身、つねに若くあるうと気力・体力を充実させるべく努めておりました。

遺品を整理いたしておりましたら、六年前の橋本カントリークラブ会報に父が書きました原稿が出てまいりました。

コピーを同封させていただきましたので、ご一読いただければありがたく存じます。父も（ちょっと照れながらも）きっと喜ぶことと思います。

また、自宅の車庫兼物置きを見ましたら、ゴルフバックが8セットもありました。車庫の上にあるゴルフ練習用のみどりのネットが静かに風にゆらいでいました。

父の手帳の今年11月のページには、1日球忘会、14日15日球忘会（白浜）、29日凸凹会と、ゴルフの予定のみが記されていて、それが今年最後の予定記入でした。

手帳の最初の見開きページ、2010年1月15日のところには、赤ボールペンで小さく丸く囲み、球忘会（ふぐ）と記されておりました。

父は爽やかで男らしくあるうと生きてきたと思います。若き日は水泳、そしてその後はゴルフ……スポーツを通じて熱い思いと深い礼儀をもつ凛々しい姿の友人たちと交誼を結んできました。通夜・告別式であらためてそのことを知ることができました。

肉体の桎梏を離れた父のたましいは、明るいいひかりの降りそそぐなか、S様と芝の上でプレーを楽しみ続けることと思います。

ほんとうにありがとうございました。

本日はまずは略儀ながら書中をもって御礼かたがたご挨拶申し上げます。

不

二〇〇九年七月五日

吉村 喜彦

S 様